プレイ・オブ・コンシャスネス

スワーミ・ムクターナンダ

ここで私は、瞑想の道に従う者に、自分がチティ・シャクティの力の中に存在し、グルデーヴはその者の体内に実在することを信じられるよう、真理を告げたいと思う。鼻、耳、目、舌、口が人についているのと同様に、シュリー・グルデーヴは、その者の内側と全体に存在するのだ。いとしいシッダの生徒よ、これについてじっくりと考えてほしい。グルと、恩恵が持つ神聖なる力に、心からの深い信頼を持たなくてはならない。

考えてみるがいい。医者があなたの体に注射すると、それが体中に広がっていくのを感じるだろう。注射によって体中が温まったり、医者が勧めた薬を飲んで、病がうそのように治った経験があると思う。注射や薬はどれだけの美徳があって、体中の血管や細胞に行き渡り、病を追い出したのであろう！

サッドグルもこれと全く同じように、あなたの中に入り込む。あなたが意識するしないにかかわらず、彼の凝視は、その言葉は、その思考は、あなたが彼と一緒にいることで、そして、彼の体に触れることで、あなたに伝授を与え、至福に遊ぶ至高のパラシャクティを与える。そして、苦悩の源である無知を滅ぼすのだ。あなたの頭の先から爪の先まで、肉体の七大要素として、十大感覚として、五つの鞘（さや）として、グルはあなたの中に実在する。ゆえに、あなたが内側から導かれ、自己実現を遂げることに何の不思議もないのである。

しかし、あなたが、このようなグルの知恵から、愛から、グルを信頼することから、従うことから、逃げ出してしまえば、彼はあなたに見向きもしなくなる。彼はあなたの中にクリヤーとして現れる。ゆえに、あなたの中に住んでいる彼が、内側からあなたを導くことは、奇跡でも何でもない

のだ。ムクターナンダの言うことは真実である。グルは全くもって、あなたのものだ。ただし、あなたが彼のものになっていなければならない。彼はあなたから遠いのではなく、あなたが彼から遠いのだ。それが、あなたに毎日新しい理解が生まれない理由である。

私は私のグルに対して確固とした信頼を寄せていた。どこに行くにも彼の写真を携えた。散歩に行く時でさえ、彼の写真を持って歩いた。食べる時にも彼の写真と一緒に食べた。寝る時にも彼の写真と共に寝た。人が何と言おうと風呂場にさえ、彼の写真を置いた。

前に既に述べたサルヴァグニャローカで、シュリー・グルデーヴの具現である内なる光の中で、メッセージを受け取った。「おお、ムクターナンダよ、ブルーパールを見たことで、汝（なんじ）はジーヴァンムクティを獲得し、超越の至福を体験したが、汝が完全になるには、まだ道は続く。汝が得たものは究極の自己実現ではない。それを得るにはブルーパールの中に入らなくてはならない」

これが、私の内にある女神チティからのメッセージであった。私はそれを女神の真の命令と思い、いっそう瞑想に励んだ。瞑想すればするほど、ブルーパールは長い間揺らぐことなく、私の面前にいるようになった。それが長ければ長いほど、その光は輝きを増していった。それが見えている間中、見たこともない事象や奇跡が次々と現れた。

内側から、次のような感情が無限に湧き上がった。これは単なる青色なのだろうか、それともニーラカンタ、青い喉を持つシヴァなのではないだろうか。これは単なる青色か、それとも青い色をしたシュリー・ニッテャーナンダだろうか。これは単なる青色か、それとも青色の女神、バヴァーニー・ウマー・シャクティ・クンダリニーであるニーレシュワリだろうか。ブルーパールはどんどん近づいてきた。
その度に、輝きも倍加した。ムクターナンダは成長するにつれ、より変容し、委ねるに従って、より拡大し、ムクターナンダが実際には何であるかの認識が生まれた。ブルーパールの上に起

こっていることがムクターナンダにも起こっているのだった。私のブルーパールに対する信頼はますます強まっていった。自分の体の各部分を自分のものと考え、これは自分だというのと全く同じように、私はブルーパールについても、そのように考えるようになっていった。

© 2021 SYDA Foundation®.著作権所有。

Swami Muktananda, Play of Consciousness (South Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 2000) pp. 189-191.